

平成 29 年度委員会活動成果報告会

2018-6-8
校正事業委員会

校正事業委員会 とは

メーカーのJCSS校正サービス発展

JCSSの
利用促進

情報発信

JCSS
制度運用
の改善

政策への
提言

JCSS(計量法に基づく)制度

第134条:産総研からの計量標準供給
(国家計量標準供給制度)

第143条:ISO/IEC 17025認定基準
(校正事業者登録制度)

登録(認定)機関:NITE

平成29年度委員構成(7社+※外部委員1機関+オブザーバー)
アズビル、小野測器、菊水電子工業、島津システムソリューションズ、山里産業、リオン
※産業技術総合研究所、製品評価技術基盤機構(略称:NITE)

JCSSの利用促進及び啓発活動

【会員企業への情報発信及び情報収集】

JCSS情報配信サービス

- ◆ 経済産業省審議会などの情報
【計量標準部会(JCSSの特定標準器の指定等)】
【知的基盤整備特別小委員会
(JCSSや計量標準の利用促進・計量標準の整備計画等)】
- ◆ JCSSに関するイベント(委員会主催含む)の情報

【会員企業の社内教育の推進を支援する】

JCSS見学会

- ◆ 会員企業の新人や中堅社員を対象としてJCSSの計量標準供給の現場等を知る
- ◆ 見学対象箇所:(一財)日本品質保証機構(JQA)計量計測センター
- ◆ 参加人数:17名

JCSSの利用促進及び啓発活動

計量検定所アンケート調査

目的: 計量法改正で基準器検査のJCSS校正証明書の活用が期待されるため、計量検定所に対するJCSS認知度等のアンケート調査を行い、JCSSの利用促進を図る

- ◆ 計量法改正関連事業として全国(47都道府県)計量検定所宛にJCSS認知度等のアンケート調査を実施した(回答率70%)
- ◆ JCSSについて問い合わせを受けたことがありますか?(ある:55%)
- ◆ 最も多かった問い合わせ内容:JCSS校正できるところを教えてください
- ◆ 計測展をご存知ですか?(はい:55%)

温度指示計器JCSS範囲拡大

JEMIMA温度指示計器WG

※温度指示計器は、「電気」の区分に入るが、温度を表示する受信器単体のJCSSであるため、温度のJCSS登録事業者が取得していることが多い

※「温度」と「電気」にまたがるため、JCSS協力WG(温度計測委員会)との合同WGを設置した

- ◆ NITEから範囲拡大のためのJCSS適用指針の改定案の検討依頼
- ◆ コメントの提出などの対応を行い、説明会に参加した
- ◆ 適用指針改定案は、NITE電気 I 分科会に引き継がれ、審議される

JCSSの利用促進及び啓発活動

計測展2017 TOKYO 出展

委員会セミナー

広がる校正サービス2017 ～時代と変わるJCSS～

聴講者:87名(アンケート回答者55名)

- ① 計量制度見直しにおけるJCSS関連改正について(経済産業省 計量行政室)
- ② Rh-C共晶点(1657 °C)を用いた熱電対校正技術の開発
(産業技術総合研究所 物理計測標準研究部門)
- ③ ISO/IEC17025の改正状況について(NITE認定センター)
- ④ 時代と変わるJCSS(JEMIMA校正事業委員会)

小間出展

来場者:3日間合計247名(アンケート回答者247名)

- ① JCSS認知度アンケート調査
- ② JEMIMA JCSS校正サービスハンドブック2017 配布
- ③ JCSS制度の説明

政策への提言：JCSS制度運用の改善

経済産業省 第9回 知的基盤整備特別小委員会

- ◆ 第一期、第二期知的基盤整備計画において上げられた課題（JCSS制度運用の改善）が解決されているか調査を行うよう指摘（資料3-2）
- ◆ 関係機関において更なるJCSSの利用促進をするよう依頼
- ◆ 関係機関が計測展2017 TOKYOにおいてJCSSの利用促進活動を行ったことが資料に掲載された

知的基盤整備特別小委員会とは
計量標準等の知的基盤の整備・計画や実施状況の評価等を行う委員会

関係機関との情報共有

- ◆ 計量検定所アンケート調査結果
- ◆ 計測展2017 TOKYO委員会セミナー聴講者アンケート調査結果
- ◆ 計測展2017 TOKYO来場者JCSS認知度アンケート調査結果

外部との交流活動ほか

計測標準フォーラム

- ◆ 参画団体のイベントとして、計測展2017 TOKYOについてMETI計量標準ポータルサイトに掲載した
- ◆ JEMIMAのJCSS利用促進活動の報告を行った

NMIJ精密電気計測コンソーシアム

- ◆ 高抵抗のJCSS化の取り組みについて情報を入手した
- ◆ 加入団体の標準室の見学会に参加した(キーサイトテクノロジー)

ユーザとの情報交換

- ◆ 計測展2017 TOKYO委員会セミナー終了後、ユーザとの情報交換を行った

平成29年度の目標・達成・成果

JCSS見学会

今回は民間の校正設備を見学、新しくなったJQA(見学先)を見学したいという要望に応えられ、また見学内容に初めて線量計の校正設備があったため、今まで参加がなかった放射線関係の参加者が多く、好評だった。アンケート調査結果により、この企画が有益であることがわかり、会員企業の社内教育の支援を行うという目標は達成できた

※参加者アンケート調査結果より

Q:JCSS見学会の継続を希望しますか？希望する理由

- ◆ この取り組みは、JCSS校正事業者の校正品質向上のために有効だと思います
- ◆ より多くの社員に校正事業について理解してほしいため
- ◆ 社内の校正従事者に見学させたいため

Q:JCSS見学会の感想(全体)

- ◆ 自らの測定器の校正をする際、校正範囲や条件を参照することがあるが、自分の目で施設を見学でき、校正方法を知ることができたのは、善い体験になった。
- ◆ 無響室は通常入室できる環境にないため、このような場を体験できたことは、善かったと思う。
- ◆ ISO/IEC 17025の取得、運営等大変努力されている印象を受けました。

平成29年度の目標・達成・成果

計量検定所アンケート調査

【アンケート調査によって得られたこと】

- ◆ 日本独自の計量制度である法定計量に関わる機関において、新たな制度のJCSSがどのように扱われているのかがわかった
- ◆ トレーサビリティについては、浸透していないことがわかった
- ◆ JCSS校正を希望する企業が計量検定所に問い合わせをしていることがわかった
- ◆ 計測展2017 TOKYOの招待券を送り、JEMIMAのPRができた(今後も継続)

計測展2017 TOKYO

- ◆ 委員会セミナー聴講者が多かったことはよかった
- ◆ 委員会小間の場所がよくなく、小間も狭かったため、集客に苦慮した

平成29年度の課題

計測展委員会セミナー

- ◆ 聴講者数は多かったが、聴講者は校正事業者とユーザが混在しており、温度計ユーザに1600°Cの校正のPRが十分にできていなかった
- ◆ ユーザに視点をおいたテーマの絞り込みやPR方法を検討したい

計測展小間出展

- ◆ 小間位置や小間の規模などの条件が年々、悪くなっており、集客の更なる工夫が必要となった
- ◆ 計測展に出展するよりも、ユーザの展示会に出展した方がJCSSのPRができると感じた

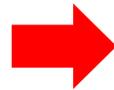
平成29年度成果の委員会参加企業・会員への 貢献について

会員企業からの直接的な
要望に応えた事業を実施

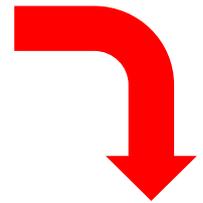


- ◆ JCSS情報配信サービス
(会員企業への情報発信・情報収集)
- ◆ JCSS見学会
(会員企業の社内教育の推進を支援)

アンケート調査による情報収集
(計測展・計量検定所等)



関係機関との旬な情報を共有



JCSS制度運用の改善
JCSS利用促進につなげる



JEMIMA会員と会員を取り巻く産業界の状況
として関係機関で実施する利用促進に活用

平成30年度の予定

平成29年度から継続する事業

- ◆ JCSS情報配信サービス
- ◆ 計測展2018 OSAKA出展(委員会セミナー含む)
- ◆ NMIJ精密電気計測コンソーシアム参加

平成30年度新たに実施する事業

- ◆ JCSSコーナーリニューアル
 - JEMIMA WEBでヒット率が高いが、NITEのホームページに移動してしまうことがわかり、移動せず、よく読んでもらうために改善を行う
- ◆ 会員限定セミナーを開催する
 - 校正依頼から納品(校正完了)までの計測器管理システムの事例を紹介と標準室の見学をセットで開催する